

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 次の記述のうち、社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士の業について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行う。
- 2 福祉に関する事務所において、援護又は育成の措置に関する事務を行う。
- 3 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う。
- 4 専門的知識及び技術をもって、福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービス関係者等との連絡及び調整その他の援助を行う。
- 5 社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う。

問題 22 次の記述のうち、ソロモン(Solomon, B.)が提唱したソーシャルワーク理論の説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 システム理論に生態学的な視点を導入し、有機体と環境との相互作用に焦点を合わせた生活モデルを確立した。
- 2 クライアントが社会から疎外され、抑圧され、力を奪われていく構造に目を向け、無力な状態からの脱却を目指した。
- 3 心理的な側面と社会的な側面の双方を視野に入れて、クライアントを状況の中にある人間として捉えた。
- 4 実践の構成要素を示しつつ、問題解決過程が人間のもつコンピテンスの拡大に関わると主張した。
- 5 直接的因果論や客観的事実を否定し、過去を重視せず、現在・未来志向の短期的アプローチを主張した。

問題 23 次のうち、ソーシャルロール・パロリゼーションを提唱した人物として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ニイリエ(Nirje, B.)
- 2 ビアーズ(Beers, C.)
- 3 ヴォルフェンスベルガー(Wolfensberger, W.)
- 4 ラップ(Rapp, C.)
- 5 バンクーミケルセン(Bank-Mikkelsen, N.)

問題 24 6月のある日、大学のキャンパスソーシャルワーカーであるG精神保健福祉士のところに、留学生のHさん(1年生)が留学生支援センターの職員に付き添われやって来て、面接することとなった。生気のない様子のHさんはぼろぼろ涙をこぼしながら、「日本の大学に憧れて留学したが、同級生との会話は早すぎてついて行くことができない。授業の内容があまり理解できずに困っている。アパートの隣人からはゴミの分別について強い口調で注意され悲しい気持ちになった。母国にいる家族の期待を考えると苦しくて、もうどうしたらよいか分からない」と訴えた。

次の記述のうち、この面接場面においてG精神保健福祉士が優先すべき対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 同級生への話しかけ方の練習を提案する。
- 2 授業について行けるかが心配なので一緒に考えましょうと伝える。
- 3 留学生に慣れた家主や近隣の人々がいる物件を探して転居することを勧める。
- 4 うつ気味であることを心配し、精神科クリニックへの受診を促す。
- 5 ゆっくり話を聞きつつ、Hさんとともに状況の整理を行う。

問題 25 次のうち、ソーシャルグループワークについて、コノプカ (Konopka, G.) が提唱したものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会的諸目標モデル
- 2 社会的学習理論
- 3 相互作用モデル
- 4 課題グループ
- 5 実践における14の原則

問題 26 次の記述のうち、精神保健福祉相談員に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者及びその家族等その他の関係者に対する訪問指導業務を行う。
- 2 厚生労働大臣が任命する。
- 3 精神保健福祉センターや保健所その他これらに準ずる施設に必置される。
- 4 精神保健福祉士が担う場合には、3年以上の実務経験が必要となる。
- 5 「障害者総合支援法」に規定されている。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 27 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う権利擁護の調整機能に当たるものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生活に困窮して相談支援事業所を訪れた人に、生活困窮者自立支援事業の情報を提供する。
- 2 投票に行けない人々が見過ごされていることに対して問題を提起し、選挙権を行使できるよう活動する。
- 3 市が主催するイベントや地域のお祭りの機会を通じて、広く市民に対して障害への理解促進を働きかける。
- 4 勤務日の変更を提示され通院できなくなるため退職を考えているクライアントに、合理的配慮があることを説明する。
- 5 購入したばかりの高額商品のトラブルで困っている通院患者から依頼を受けて、消費生活センターにつなぐ。

問題 28 Jさん(16歳, 女性)は, 母親(42歳)と祖母(75歳)の三人暮らしであった。ある日, 祖母が認知症のためU精神科病院に入院することになった。U精神科病院のK精神保健福祉士は入院に当たって, 母親とJさんと面談をした。母親は離婚後, パート勤務しているが, 経済状況は厳しく, 二つの仕事を掛け持ちしていた。そのため, 母親の帰りは遅く, Jさんが祖母の介護を担っていた。祖母から目を離せない時には, Jさんは高校を休んでおり, 周りには相談できる人もいない様子であった。K精神保健福祉士は, Jさんにも専門的な支援が必要であると考え, Jさんの同意を得て関連する機関に連絡をした。

次のうち, K精神保健福祉士が行った活動として, **適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 コーディネート
- 2 コーピング
- 3 モデリング
- 4 ブローカリング
- 5 シェイピング

問題 29 次の記述のうち、チームアプローチにおけるトランスディシプリナリ・モデルの説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 職種の専門分野を超えて役割を解放し、横断的に共有を図り課題を達成する。
- 2 チームにおいて専門職として各々の役割を果たすため、独立して業務を行う。
- 3 職種間の役割を一部流動させ、チームとして複合的な課題に取り組む。
- 4 協働・連携の下で各々の役割を果たすため、専門職間の相互作用が高まる。
- 5 チーム内の専門職間に階層性が存在し、医療現場では医師が中心となる。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。

〔事 例〕

L 精神保健福祉士は、精神障害者を主な利用者とする就労継続支援 B 型事業所で働いている。作業が終わると利用者数人が集まり、人付き合いや生活上の困りごと、夢や願いなど様々なことを互いに話し合っていた。その話し合いの場は徐々に広がりを見せ、他の事業所の利用者も加わるようになっていった。L 精神保健福祉士は、その活動の代表となった M さんから話し合いの場所について相談を受け、公民館を紹介した。しばらくの間、L 精神保健福祉士が会場予約を代わりにしていたが、M さんたちは集まる時間や回数、ルールなどを決め、会場予約を含めて自分たちで運営するようになっていった。そして自分たちの活動に「α」と名前を付けた。(問題 30)

ある日、L 精神保健福祉士は、市の社会福祉協議会の A 社会福祉士から「精神障害への理解と関わり」をテーマに市民を対象とした研修会の講師を依頼された。研修会で L 精神保健福祉士は、精神疾患の発症頻度や症状、リカバリーの考え方などについて講義した。受講者からは、「精神疾患について初めて学ぶ機会を得た」「町内に障害者の事業所があるが、ほとんど交流がない」などの感想が述べられた。そこで L 精神保健福祉士と A 社会福祉士は、精神障害についての理解が地域ではなかなか得られにくく、見えない壁があると考え、次は当事者にも講師を担当してもらい研修会を企画しようと話し合った。

L 精神保健福祉士が「α」のメンバーに相談したところ、自分たちの経験を発信する機会にしたいと賛同が得られた。「α」のメンバーと L 精神保健福祉士は、地域への発信の内容や方法をそれぞれの立場から学び合い、皆で考え準備を進めた。(問題 31)

半年後に「α」のメンバーが講師に加わった新たな研修会を開いた。研修会後、受講者から、「同じ地域社会の中で共に生活している人だと感じた」「一緒に町内のイベントなど何かをやれそうに思う、やってみたい」などの感想が寄せられた。(問題 32)

問題 30 次のうち、この活動を表すものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 当事者研究
- 2 リカバリーカレッジ
- 3 セルフヘルプグループ
- 4 元気回復行動プラン
- 5 ソーシャルファーム

問題 31 次のうち、ここでのL精神保健福祉士の関わりを表すものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ナチュラルサポート
- 2 パートナーシップ
- 3 ボランティア
- 4 コンシューマー・イニシアティブ
- 5 チャリティ

問題 32 次のうち、L精神保健福祉士の一連の関わりの背景にある理念として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ソーシャルインクルージョンの実現
- 2 メインストリーミングの保障
- 3 インテグレーションの確立
- 4 バリアフリーの推進
- 5 アクセシビリティの向上

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。

〔事 例〕

精神科クリニックで働く B 精神保健福祉士(以下「B ワーカー」という。)は、中学の養護教諭からの紹介で、嫌なことがあるとリストカットするという C さん(15 歳、女性)のインテーク面接を行った。当日母親が付き添っていたが、はじめに C さんから話を聞いた。B ワーカーがバイオサイコソーシャルモデルにのっとして話を聞く中で、C さんはクラスの誰とも付き合いがなく、休み時間も机に伏していることや、摂食障害の傾向もあることが分かってきた。親については、「父親はいつも酔っている。母親は怒ってばかりなので何も話していない。今日も理由が何か分からずに来ている」と言う。B ワーカーは C さんが話してくれたことをねぎらい、医師の診察につなげた。

(問題 33)

診察後、医師と B ワーカーは、C さんにことわって、母親に状況を話した。母親は驚き、「夫のことで頭が一杯で気が付かなかった。夫は毎晩深酒しては、C の成績や反抗的態度について私を責めるんです。だからつい C には厳しくしてしまっ。C が身体を傷つけたり、無理に食べて吐いたりするのをすぐにやめさせます」と言う。B ワーカーは、「急いで C さんの行動をやめさせようとせず、まず C さんの思いを聞きましょう」と伝えた。

C さんの通院が始まり、B ワーカーは、母親に対して C さんへの対応を話し合うだけでよいのか気になったため、職能団体が実施するスーパービジョンを受けた。スーパーバイザーからは家族をシステムとして理解すること、母親もクライアントであるという視点をもつこと等の助言を得た。B ワーカーは母親のニーズと共に、親子 3 人の関係性から C さんの問題を考え始めた。(問題 34)

B ワーカーは C さんの話を聞くように努め始めた母親を称賛しつつ、母親のニーズを明確にしていった。そして母親に更なる気づきを促すために、「他の家族からも学びましょう」と保健所主催のアルコール問題を理解するための家族教室への参加を勧めた。(問題 35)

問題 33 次のうち、バイオサイコソーシャルモデルの視点でBワーカーが着目したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 問題を親には言わずに抱えてきたCさんの強さ
- 2 自傷行為や摂食障害に見られるCさんの病理
- 3 学校でも家でも孤立し無力化しているCさんの状態
- 4 母親が怒ってばかりの家庭に育ってきたというCさんの物語
- 5 Cさんの心身の状態と学校や家庭での状態との相互関連性

問題 34 次のうち、Bワーカーが受けたスーパービジョンの効果として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 業務の枠組みの明確化
- 2 アセスメント能力の向上
- 3 個人的な課題についての自己洞察
- 4 バーンアウトの防止
- 5 業務の遂行状況の明確化

問題 35 次の記述のうち、母親に保健所主催の家族教室を紹介した目的として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 父親の飲酒による攻撃的な行動から母親とCさんが避難するため。
- 2 父親の飲酒問題への母親の誤った対応を直ちにやめてもらうため。
- 3 父親が酒を飲む理由を排除するため。
- 4 父親を同伴し飲酒問題を解決してもらうため。
- 5 父親の飲酒問題が母親とCさんにどう影響するかを理解してもらうため。